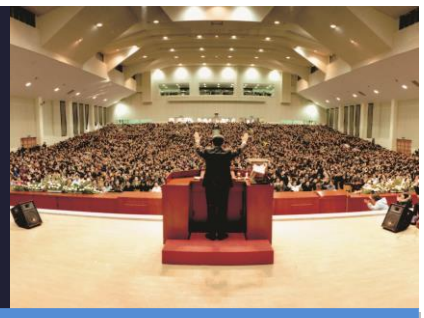
第 2018-52 号

恵みと真理のニュース



2018 年 12 月の五次　恵みと真理教会
韓国 京畿道 安養市 萬安区 安養路 193 / ☎82-31-443-3731 / www.gntc.net

［証］

わたしの信仰の根である恵と真理教会に再び来て信仰と愛の熱情を回復して御言葉で充満な人生を生きるようにしてくださった神様の恵みに感謝捧げます。

私は幼い頃、恵と真理教会を仕え家でもいつも神様に祈っている母の姿を見て育ちました。 私も教会で過ごす時間がとても楽しくてよかったです。さまざまなことで心が痛むと私も母のように神様に祈りをたくさんしました。祈りをする中で方言の賜物を受けて主を人格的に出会う体験をした後、中高等学生ごろ、教会学校で奉仕しました。大学入試を控えて高校３年せいの時も聖歌隊で奉仕を休まなかったです。
大学進学のため受験を受けましたが結果があまりよくなかったです。生まれ初めて受けて見る低い点数に私は大きく落胆して自分が恥ずかしくて神様まで恨みました。そうしながら、“ 人間の心は自分の道を計画する。主が一歩一歩を備えてくださる。という御言葉を信頼してある神学大学の児童福祉学科に進学して教会学校で教師として奉仕を始めました。私が願っていた神学ではなかったのでしばらく間は失望感を隠せない結果的で神様の恵みだったのを悟りました。私が願っていた大学を神学をして願っていた学科を専攻するようになったらたぶん世俗化になった大学文化になれてしまって適当に世と妥協する方法を習って生活をしただろうと思います。
神様が大学の賛美団体の振り付けチームで熱心に奉仕して信仰生活するようにしてくださいました。平日のすべての祈り会と礼拝に休まずに参席しました。水曜日には夜の礼拝、聖歌隊で奉仕して主日は教会学校で夜遅くまで奉仕しました。大学生活４年間当会長の牧師の説教を聴きながら信仰が成長しました。
大学３年の時、学校で実施した日本短期宣教を行ってきてから毎日日本のため祈りました。学校を卒業をしながら１年間、フィリピンでの宣教奉仕活動をするように計画したのをやめて日本留学を決心しました。留学を推進をする時、日本で居住するおじさんの家で泊まろうとして勉強する大学まで全部決めておきましたが、急におじさんが結婚して日本で一人で生活をし他の学校で勉強するようになりました。
長い間、祈って神様の御心だと思って留学を来ましたが、計画通りならなかったのではじめは失望感が大きかったです。しかし、これも神様が私を導いた恵だったのを知り、神様に感謝を捧げました。イエス様を信じないおじいさんによって私の信仰生活が妨げを受けるそんなことができないようになりました。また、語学塾で勉強する間、信仰が弱くて神様から離れる危機に直面した後輩を教会に導いて信仰生活をよくするように助けて、語学塾の家庭を終えてから計画した学校よりもっと良い大学にいって勉強することができました。
名古屋大学の教育学部で勉強した心理学の分野はそこで修士学位を受けるならすぐ臨床真理の試験を受ける資格が与えられるのでその大学の学部生も研究生に入って勉強するのがやさしくない所でした。日本語も良くできない私に神様がその道を開いてくださいました。寮の募集の日程が終わって日本が原則を重視する国だったので後で入ることができない状況だったにも私は寮に入ることができました。寮で生活しながら韓国から来た数人の国費留学生を伝道しました。
留学生の身分だった私は神様が宣教の希望を与えてくださいました。留学を計画する時抱いた夢と前が見えるのを考えると決心するのが容易ではなかったですが、“主の御旨なら”といつも神様に賛美した信仰を告白した私だったので“主よ！わたしの人生の道を主に委ねて従順します。”と決断をおろしました。勉強しに行った娘が中途放棄するとしたら親が苦しんでました。また、私も初めから主の事を訓練させたか、なぜ、私を一般大学でん勉強させたか理解できなくて神様のお考えを聞く祈りをしました。宣教使役をしながら他の教会と協力をする時、神様の御旨を知ることができました。
韓国の出身の宣教師達がだいたい使役をして日本教会たちと協力する時知らず知らず多くの苦難を受けました。
しかし、私は日本教会で名古屋大学の研究生で紹介されて学生達を熱心に伝道した履歴があった理由なのか、苦難を受けませんでした。韓国とアメリカと日本人のクリスチャンの５００名が集まる日本キリスト教会で大きい行事だった修練会を進行する時も重要な役割を担えることができました。また、教会で神様を畏れる配偶者に出会って結婚しました。
ところが、日本の経済状況が急に悪化され自動車の設計の業務をする旦那が韓国に帰るのか、日本に残るのか決定しなければならない岐路に立たされるようになりました。帰国を決心しましたが、実際に韓国に帰国するには状況があまりよくなかったです。日本で同じ職場で働いていた人々がもう韓国に離職した後で席がなくて出国を控え夫の去就が決定されなかったです。なおかつ私が妊娠した状態でした。わたしの切ない祈りを聞いてくださり、神様が助けてくださって旦那が願っていた企業に就職しました。夫は神様の恵みに感謝して財政が苦しい退職金の全額を献金する難しい決心をしました。急に帰国して新しく暮らす家も探さなければならない状況でもお金が必要でしたが、私も神様にすべてを預かって夫を従いました。
初めて韓国に戻ってきて子を出産した後、わたしの信仰が弱くなり始めました。夫の職場が地方にあって一人で子育てをしなければならなかったです。子供が鋭敏な性格で私は安らかに寝る日がなくなりました。教会に行っても子供がよく泣いて私は説教をまともに聴くことができなく、以前のように一人で祈る時間を持つことができませんでした。どんな問題で祈りをしても問題が解決されなかったので神様が私を忘れたのか。私が神様の前で罪を犯したのではないのかとする考えをするようになりました。
神様がそんな私を教会の子供達を仕えるように導いてくれました。私と同じ環境で同じ悩みを持っている母達とともに慰められ挑戦を受けました。二番目の子を妊娠した状況で一番上の子をおんぶしオムツかばんを持って教会に行って子供を見守りながら礼拝を捧げました。主に委ねないと生きられないのに信仰が弱くなったわたしの姿を悔い改めました。二番目の子を出産してもっと大変な時が多かったですが、そのたびことに、神様は車奉仕をする方々を送ってくださり、すばらしい信仰を持った育児の先輩をわたしのまえに送ってくれました。
旦那に良い条件のスカウトの提案が入ったので転職しようとする刹那に勤めていた会社からもっと良い条件を提示したので夫は悩んだ末に離職をあきらめました。ところで、会社がさまざまな理由を挙げながら約束を守らないと会社に対する信頼がなくなった夫が急に会社に辞表を出しました。わたしの信仰が回復されて子供達も良く育っていて、旦那ももっと良い条件で働くようになったが、なぜ、こんなことが起こったか、私は苦しかったです。それで、夜明けに涙を流しながら神様にお祈りしました。
そんな私を聖霊様が慰めて導いてくださいました。実家の近くに引越ししてわたしの信仰の根である恵と真理教会で首区域長として相変わらず仕えている母がいる教会ですべての礼拝と祈りに参席して聖書大学で新しい心で聖書勉強をしました。そうしながらわたしの信仰が完全に回復されるのを感じました。また、長い間、祈った祈りの題目が一つ一つ神様に答えられ忍耐と希望の実りを得る喜びを味わいました。子供達が大きく育ちながらできる経済問題によって悩みながら祈りをする時、水曜礼拝で当会長の牧師を通して大きく慰めと力になる御言葉を聴いて 、主が下さった御言葉に従順する時、学校でケア教師として働くように摂理してくださいました。
そして、忘れていた子供達に対する信仰教育の熱情もまた、説教を通して想起してくださって児童区域長として献身するようにしてくださいました。
わたしの夫は大企業で働かないです。わたしの家庭は経済的に豊かではありません。また、わたしの子供達が頭が良くてきれいな顔でもないです。しかし、私は今、心がすごく平安で幸せです。大企業ではないが安定された職場で認定を受けながら、仕事をしている夫と頭が良くなくても教会で楽しく聖歌隊で奉仕をする一番目の子と人形のようにきれいではないが誰よりもかわいくて毎日教会に行きたいという二番目の娘がいます。そして、何よりも神様が信仰を失われなく私を守ってくださり、わが教会で御言葉と聖霊充満な信仰生活をする福を与えてくださってただ、感謝するだけです。神様は私に多くの子供達と共に児童区域礼拝のため居間が広い家を構えたい夢をくださり祈るようにします。神様はわたしの夫婦に知恵と能力を与えてくださるのを願います。“ 主はこう言われる。創造者、主、すべてを形づくり、確かにされる方。その御名は主。”神様を固く信じるので希望の中で感謝捧げます。ハレルヤ！

［信仰コラム］　私達の良い牧者でおられるイエス様

”...盗人が來るのは，盗んだり，殺したり，滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは，羊に命を得させ，豊かに得させるためである...”（ヨハネによる福音書 10:1～16）

ヨハネによる福音書 10 章でイエス様が御自分と聖徒達を指して牧者と羊に例えた御言葉の意味を調べてみましょう。
1 節と 2 節に”よくよくあなたがたに言っておく。羊の囲いにはいるのに，門からでなく，ほかの 所からのりこえて來る者は，盗人であり，强盗である。門からはいる者は，羊の羊飼である。”と記録されています。イエス様が言われた羊の囲の門は聖書に啓示された救いの真理を意味します。イエス様が十字架につけられて死なれることで私達の罪を贖ってくださった救いの真理ではない他の教訓で羊に接近する者達を指して盗人で強盗だと言われました。
3 節から 5 節まで”門番は彼のために門を開き，羊は彼の声を聞く。そして彼は自分の羊の名をよんで連れ出す。自分の羊をみな出してしまうと，彼は羊の先頭に立って行く。羊はその声を 知っているので，彼について行くのである。ほかの人には，ついて行かないで逃げ去る。その人の声を知らないからである 」。”と記録されています。門番は牧者でおられるイエス様を指します。イエス様の羊はイエス様の音声を知って、その音声だけ従います。聖書と異なる声を出す者に決して従わず断固として排撃します。
6 節から 8 節まで”イエスは彼らにこの比喩を話されたが，彼らは自分たちにお話しになっているのが何のことだか，わからなかった。そこで，イエスはまた言われた，「よくよくあなたがたに 言っておく。わたしは羊の門である。わたしよりも前にきた人は，みな盗人であり，强盗である。羊は彼らに聞き従わなかった。”と記録されています。イエス様が言われたこの比喩の御言葉を理解して受け入れる人になる前までは誠なキリスト人だと言うことができません。贖いの死を死なれるためこの世にお越しになったイエス様以外には救い主がないのでイエス様以前に救い主として成り済ました者達は人の魂を害する盗人であり、強盗に過ぎません。今日も同じです。
9 節に”わたしは門である。わたしをとおってはいる者は救われ，また出入りし，牧草にありつくであろう”と記録されました。ノア時代の人々は救いの門の外で覗き込んだり、観察したりして離れた人々の典型です。神様が機会の門を閉めると誰も開けることができません。唯一な救いの門でおられるイエス様の中に入るべきです。”また出入りし，牧草にありつくであろう”としました。私達が処されて直面する状況がどうであれ、全て有益になるよう配慮してくださいます。
10 節に”盗人が來るのは，盗んだり，殺したり，滅ぼしたりするためにほかならない。わたしがきたのは，羊に命を得させ，豊かに得させるためである”と記録されています。盗人はサタンとサタンの下手人役割をする者達を指します。福音を混雑にさせる異端がサタンの下手人です。盗んで殺して滅ぼせようとすることはサタンの本質です。イエス様は彼を信じる者達に生まれ変わる生命を与え、天国で永遠に生きるようにしてくださいます。
11 節から 15 節に”わたしはよい羊飼である。よい羊飼は，羊のために命を捨てる。羊飼ではなく，羊が自分のものでもない雇人は、おおかみが來るのを見ると，羊をすてて逃げ去る。そして，おおかみは羊を奪い，また追い散らす。彼は雇人であって，羊のことを心にかけていないからである。わたしはよい羊飼であって，わたしの羊を知り，わたしの羊はまた，わたしを知っている。それはちょうど，父がわたしを知っておられ，わたしが父を知っているのと同じである。 そして，わたしは羊のために命を捨てるのである”と記録されています。雇い人は自分の一身上の有益のために行動します。信者達に宗教多元主義、宗教一致主義、宗教混合主義の実体を知らせません。イエス様は羊のために御自分の命を十字架にかけられました。
16 節には”わたしにはまた，この囲いにいない他の羊がある。わたしは彼らをも導かねばならない。彼らも，わたしの声に聞き従うであろう。そして，ついに一つの群れ，ひとりの 羊飼となるであろう”と記録されています。この囲にいない羊とは未だにイエス様に進んでこない者達を話します。この御言葉を従って私達は不信者達に熱心に福音を伝えるべきです。皆さんは、伝道に励んで良い牧者でおられるイエス様に来て救いを受ける人の数が日増しに増えることを見る楽しみが心霊に満たされるよう祝福します。

「チョヨンモク牧師先生の信仰コラム‘緑の牧場、清い川’本の語り中」

良質の情報取得と配信

恵みと真理教会 **チョヨンモク** 牧師

今日は情報を得るとか、または提供する手段が多様で方法が容易です。そのようでも　一方、私たちが注意しなければならないのがあります。無用の情報、ゴミのような情報、事実を歪曲させる情報、誤解を生む情報が氾濫するからです。疑似情報、歪曲された情報を見分けるのができずに受け入れたら致命的な損傷を受ける可能性があります。良質の情報を取得する必要があります。良質の情報と真の情報、事実通りの情報、正しい情報を指します。私たちは、高品質の情報を得るのと良質の情報を知らせるのが全く重大なのであるという点を、3 つの分野を見てみましょう。

第一は、健康と癒しの情報について説明します。

健康な生活のためには、私たちが健康の情報を多く持つ必要があります。今では健康に関する情報があふれています。しかし、私たちが気をつけなければならないのは疑似情報、歪曲された情報です。「髪の毛が白くなるのを予防するために油で煮込んだ黒の子牛の血やヘビの油を塗る」ということが紀元前 1552 年ごろのエジプトで記録された有名な医学書〈パピルス、エバーズ〉の一節です。エジプトの古代医療の中心の所在地がなった後に、このパピルスは、その時の医療に関する記録として非常に重要な文献です。この本には、とげや破片が体の中にちりばめられた場合に虫の血や糞を塗ると記録されています。糞は破傷風を引き起こす原因になるのがいっぱいなので、これによる死亡率が高かったのも無理ではありません。この本が記録された時期は、モーセがエジプトに生まれた頃でした。
今日の、私たちが持っている聖書には、神がモーセを通して与えられた多くの律法と戒めがあります。その中にある病気の予防と治療に関する指示は、〈パピルス、エバーズ〉に記録されたものとは全く異なります。したがって、モーセがその当時の医学分野の権威者から模倣していないのは明らかです。皇室の最高学府で訓練を受けたモーセは、自分がそこで学んだ情報を混ぜて入れないで神から与えられた新しい情報だけをイスラエルの子らに伝えました
もしモーセがその時代の影響を受けて、自分の時代の最新の医学教育の一部を加えて入れた場合、細菌が生息の犬や猫と糞から作られた薬ではなく、「ロバの歯を蜜の中に混ぜた薬」などの処方を、私たちは聖書の中で見るでしょう。神がモーセを通して与えられた病気の治癒法は少しも害がない処方であっただけでなく、お勧めしなければならない優れた利点がたくさんあります。流れる水で洗いなさい、火で焼きと、地面に埋めと、伝染病者を隔離させろとこれらの法律は、伝染病の予防に、かけがえのない重要です。現代医学がこれらのヒントにしたのが長くではありません。私たちは、健康に生きるために良質の医療情報と併せて、聖書に啓示された情報を学び、適用する必要があります。

第二には、安寧秩序を脅かす歪曲された情報について説明します。

国の体制と軍事力と経済力は、国民の生活に大きな影響を与えます。韓国は国土が南北に分かれたし、異なる体制を持っています。共産独裁体制と自由民主体制です。過去 70 年の歳月は、二つのうちどちらの体制がいいのか火を見るように確かに明らかです。しかし、今、韓国は大きい危機に瀕しています。安保と経済の危機です。本当に不思議なのに、相当数の国民が北朝鮮の体制をあこがれて支持している現実に置かれようになったのです。そして危機意識を感じていない人が相当数います
韓国が現在このように切迫した事態に至った原因があります。若い世代に正しい歴史観、国家観、価値観の教育を怠ったせいです。一方、歪曲された情報が計画的に彼らに注入されたからです。既成世代は経済的発展の恩恵を享受するのだけに没頭しました。経済が安全保障を確保するという根拠のない信仰が蔓延しました。真の平和は、経済力だけではなく、強い軍事力にあるのに留意していません。特に教会の責任が大きいです。教会が聖書的な歴史観、国家観、価値観を聖徒に教えるのに無視してきました。真の聖職者と信者はキリスト教会を絶滅させようとする思想や体制を決して許しません。うそと欺瞞に権力を握って、その力を維持しようとする者たちは一様に、教会を壊滅させ、クリスチャンを除去します。これは歴史が証明しています。教会は国家安全保障と教会を損なう者を弁護したり、歓迎する者を断固として退け必要があります。国民を混迷させて偽情報、歪曲された情報を受け入れる指導者は排斥します

第三には、聖書に記録された情報を正しく知って伝えるに対して説明します。

聖書には、偽預言者の正体とその活動について記録されています。偽預言者とは、神様の名前に託して偽りの情報、歪曲された情報を話す人たちです。偽預言者たちが大手を振って活動できるようになったのは貪欲と高慢に満ちた王と民がいたからです。旧約聖書では、一例を探してみましょう。ソロモン王の息子レハブアムが支配したとき、国が二つに分かれました。北はイスラエル、南ユダと呼ばれました。ユダの第 4 代の王ヨシャパテは、信仰が真でした。彼は偶像を清算し、民に信仰の教育を組織的かつ体系的にしました。そのようなヨシャパテも一つの失策を犯しました
　イスラエルのアハブ王の娘アタリヤを嫁に迎えたのです。アハブは異邦の女イゼベルと結婚しイゼベルの影響を受けて、イスラエルをバアルとアシェラ像に仕える国になりました。ヨシャパテは、これらの家と結婚で結んだ理由は、イスラエル国との反目対立を回避したいのでした。信仰的な原則を離れて実利を取るしようとしたのが間違っていました。その結果として、ヨシャパテ王は、当時の多くの困難を経験しました
ヨシャパテ王がアハブ王の招待を受けて、イスラエルの首都サマリアを訪問しました。アハブ王は、両国が共同して、ヨルダンの東にあるギレアデラモテを攻撃しようという提案をしました。ヨシャパテ王が受諾した後、心に負担になって預言者を通して神の意を聞いてみようと提案しました。アハブはすぐに預言者 400 人を集めました。彼らはすべてがアハブの機嫌だけ合わせるにせ預言者であり悪い霊に接触された者でした。彼らは王に答えるのを、神がその国を掌握するようにしてくださるので遠慮なく攻撃するようにしました。ヨシャパテは 400 人の預言者が予言するのを頼りなくて、エホバに属する他の預言者はいないかと尋ねました。
アハブは答えるのをミカヤという主の預言者がいますが、自分に対して常に醜いのばかり予言しました。アハブはヨシャパテの要求を拒絶するのができなくて、預言者ミカヤを呼びました。ミカヤ預言者は、戦場で、イスラエルとユダ連合軍がまるで羊飼いのない羊のようにバラバラにしまうと予言しました。怒ったアハブはミカヤをつかんで投獄させ、自分が戦争から勝利し無事に戻ってくるまで虐待するようにしました。するとミカヤが答えのを王が戦争から勝つ平安に戻ってくるようであれば、主が自分にそのような話す理由がないから、民はこの言葉を念頭に置くように大胆に言いました
アハブは王服を脱いだ後変装して戦争に出て行きヨシャパテは王服を着ていきました。ただ、イスラエル王だけ相手して戦えなさいアラムの王の命令に基づいて、アラム長官は、最初はヨシャパテ王だけ攻撃をしました。しかし、彼らは攻撃する者がイスラエルの王アハブではないのを気づいて振り返っました。ヨシャパテ王は、神の助けでかろうじて生きています。ところが、アラム軍がイスラエルの軍事たちに向かって撃った矢が偶然にもアハブ王の鎧の継ぎを突き抜けて体に打ち込まれた。戦闘が非常に激しいだったので致命傷を負ったアハブ王は、戦場で抜け出せず夕方に命を失ってしまいました。主の預言者が預言した言葉を無視して行う大言壮語の結末はこうなりました
使徒パウロは言った、**「しかし，　わたしたちは，　多くの　人のように　神の　言を　賣物にせず，　眞心をこめて，　神につかわされた　者として　神のみまえで，　キリスト　にあって　語るのである」（　コリント人への第二の手紙** 2:17）しました。聖書には、永遠の命と天国につながる情報があります。神が共におら助けてくださる恵みの中で生きるという情報があります。数え切れない光栄で幸い情報があります。聖書に記録された福音を歪曲して、歪みれるように伝える者は呪いが宣言されています。一方、聖書を正しく知って、　正しく伝える聖徒は主の賞賛と報いが約束されています。

　聖徒の皆さんは、有益で正しい良質の情報を取得し、これを多くの人々に知らせるのに努めるください。そして最高の情報である聖書の御言葉を正しく知って広く伝えるのに励んで下さい。